

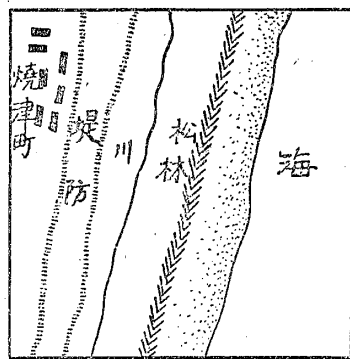
東海道西部及ビ紀伊半島東部ノ 海岸ノ變動ニ關スル調査概報

囑託員 理學士 鈴木 醇

大正十三年一月三日ヨリ九日間ニ亘リ靜岡縣用宗ヨリ三重縣波切ニ至ル間遠江灘ニ直面セル海岸ノ變動ニ就キテ調査セラルヲ以テソノ結果ヲ略報ス。調査ノ重ナル目的ハ近年ニ於ケル海岸ノ隆起沈降ヲ知ルニ在リシモ該區域ニ於テハ一ノ驗潮器ノ設置ナク精密ニコレヲ知ルヲ得ザリシヲ以テ各地ニワタリ多數ノ漁夫潜水夫古老ノ言ヲ聽取シテコレガ參考トセルモノナリ。然レドモコレ等ノ内ニハ潮流激浪等ニヨル海濱ノ削磨或ハ堆積作用ヲ以テ直ニ土地ノ隆起沈降ト混同セル者モ少なカラザルヲ以テ自ら目撃セル事ニヨリ合理的ナルモノノミヲ採用スル事トセリ。(削磨、堆積作用ニヨル海岸ノ變化モ特ニ著シキ所ハ參考ノタメ附記ス。)

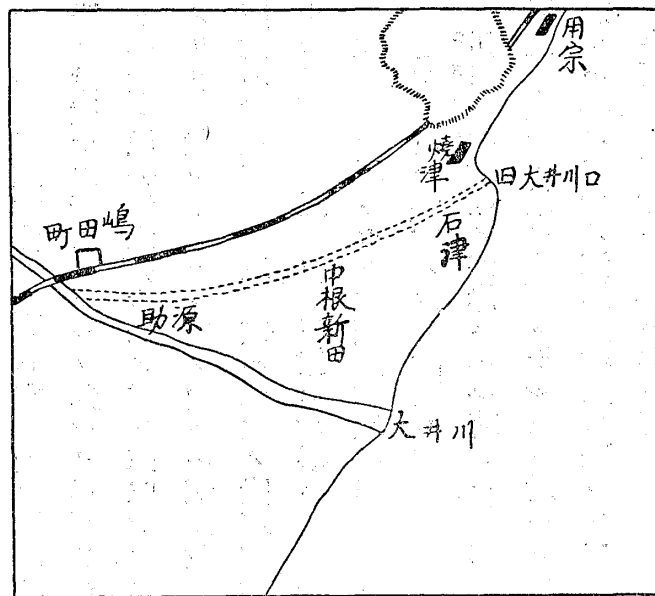
用宗燒津附近ノ海岸ニ年々著シキ變化ヲ起シ居ル事ハコノ附近ノ人々ノ最モ問題トナシ居ル所ニシテ詳言スレバ用宗ニ於テハ年々多少ノ海岸(砂及ビ礫ヨリナル)ガ増加シツ、アルニ反シテ燒津ニ於テハ年々著シク海岸(用宗ト同一物質)ガ減少シツ、アル事實アリ。用宗ニ於ケルモノハソノ量割合

ニ著シカラズ加之年々土地ノ増加スル事ナレバ郷人ノアマリ意ニ介セザル所ナルモ燒津附近ニ於テハ海岸ノ減退極メテ著シク漸次燒津町ノ南郊城ノ腰鰭ヶ島附近ヲ侵シツ、アルヲ以テ郷人モ極力コレガ防禦ニ從事シ明治四十一年堅固ナル石垣ノ堤防ヲ築キタルモ近年ソノ下部ヲ破壊セラレシヲ以テ更ニ木工又ハ石材ノ沈床ヲ施シテコレガ豫防ニツトメツ、アリ。天保四年製作ニヨル同地方ノ古地圖ニ從ヘバ現在ノ海岸ヨリ



略ボ八十間程先ニ松林アリシモノノ如クコレヨリ推察スレバ海岸ノ減退ハ一ヶ年平均一間位ニ及ビシモノナラン(第一圖)。用宗及ビ燒津附近ノ海岸ヲ造リ居ル砂又ハ礫ノ大部分ハ舊大井川ニヨリ運バレシモノナル事ハ岩質ニヨリ明カナリ。久シキ以前ニハ大井川ノ下流(島田町)以東ハ現今ノ位置ヨリ遙カニ北方ニ位シ源助、中根新田等ヲ經テ石津邊ヨリ燒津ノ海岸ニ注ギ居タル事ハ現在ノ地形及ビ郷土誌ニヨリ明カニシテ(第二圖)河筋ヲ變更シテ現在ノ位置トセル事ハ略ボ八十餘年前ノ由ナレバ海岸ガ減退シ始メシハ大井川筋變更ト略ボ同時ナルモノノ如ク想像スルヲ得、以上ノ事實ヨリ見テ用宗燒津

附近ノ著シキ海岸ノ變化ノ重ナル原因ハ潮流ノ方向及ビ大井



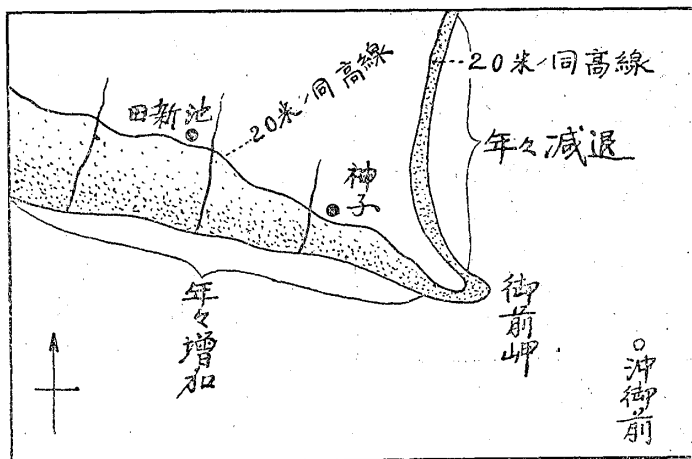
ヲ示メサザルモノノ如シ。

大井川ノ川口附近ハ焼津附近ト同様ノ礫及ビ砂ヨリナリ海岸ハ年々増加スル由ナルモ昇降ニ關スル點ハ不明ナリ。

相良附近ハ極メテ細小ナル砂ヨリナリ風浪ニヨリ海岸ノ變化ハ時々極リナキ由ナルモ廿年前ニ比スレバ相良川ノ北部ハ砂濱少シク減少シ南部ニ於テハ略ボ十間程増加セル由ナリ。然レドモ相良沖千米程ニアル愛鷹岩ハ潮位ニ對シ少シモ變化

川筋ノ變化ニ
 歸因スルモノ
 ニシテ、用宗、
 焼津ノ中間ニ
 位スル大崩附
 近ノ岩壁及燒
 津沖ノ觀音岩
 等ガ潮位ニ對
 シ何等變化ナ
 キ由ニツキコ
 ノ附近ノ土地
 一帯ハ近年目
 ダチタル昇降

ヲ認メザル由ナレバ何等ノ土地昇降ヲ示サザルモノノ如シ。



御前岬附近ノ海岸ハ細砂及ビ第三紀ノ岩石ヨリナリ所ニヨリ前述ノ如キ潮流ニヨル砂濱ノ増減ヲ示ス處ハアルモ土地ノ昇降ニ關シテハ全ク變化ナキモノノ如シ。例ヘバ御前岬ノ東北部ノ女岩附近ニ於テハ十五年前ヨリ略ボ十間程砂濱減退セルニ反シ岬ノ西部一帯ハ年々増加シ殊ニ神子附近ニ於テハ近年一ケ年平均一問位ツツ増加シツツアル由ナリ。

コレ等ノ砂濱ノ變化ハ可成リ古キ頃ヨリ繼續サレシモノナル事ハ現今ノ地形ニヨリ明カナリ(第三圖)御前岬燈臺附近ノ固キ岩石及ビ海上四籽程ニアル沖ノ御前等ノ潮位ニ對スル關係ニツキテハ數名ノ潜水夫ヨリ聽取シタルモ久シキ以前ヨリ何等變化ナシト語ルモノ多

シ御前岬西部、神子、池新田附近ノ漁夫ハ昨年春頃ヨリ海底ガ

深クナリタリト語ルモノ數名アリシガコノ附近ハ海底モ全部砂ナレバ海底沈降セルニ非ズシテ潮流ニヨル海底ノ砂ノ移動ニ原因スルモノナルベシ。

天龍川ノ川口附近ハ年々多少ノ海岸ガ増加スル由ナルモ此ノ邊一帶ハ全ク粗粒ノ砂及ビ礫ヨリナリ基點トナルベキ岩石ナク土地ノ昇降ハ不明ナリ。(以下第四圖參照)

舞坂、辨天島、新居ノ海岸ハ粗粒ノ砂ヨリナレド海岸ノ形狀ニ何等ノ變化ナク、又土地ノ昇降ニモ特筆スベキモノナキガ如シ。

伊良湖岬ノ西部ノ遠江灘ニ面セル部分ハ粗砂ノ海岸ナレドモ伊良湖岬ノ先端附近ハ固キ古生層ノ岩、壁、島嶼、岩礁等ノ露出宜シキヲ以テ海岸ノ昇降ヲ知ルニハ好適地ニシテコノ間各地ニ於テ多數ノ漁夫ニ問ヒタダセシモ二三十年來所ニヨリテ砂濱ニ一二間ノ増減ハアリシモ固キ岩石ニ關シテハ何等潮位ノ變化ヲ認メシモノナシ。伊良湖岬ノ伊勢灣ニ面セル海岸ハ大部分砂濱ニシテ土地昇降ニ關スル事ハ不明ナリ。

伊勢灣及ビ渥美灣ノ沿岸ニ關シテハ時日ナキタメ調査スルヲ得ザリシモコノ兩灣ノ境界線ニ排列セル佐久ノ島(第三紀層)日間賀島(第三紀層)篠島(花崗岩)等ノ内佐久ノ島ハ三四十前ヨリ一尺乃至二尺沈降セリト云フモノ多ク又佐久島及ビ日間賀島間ニアル大磯(暗礁)ハ古キ以前ニハ島ナリ

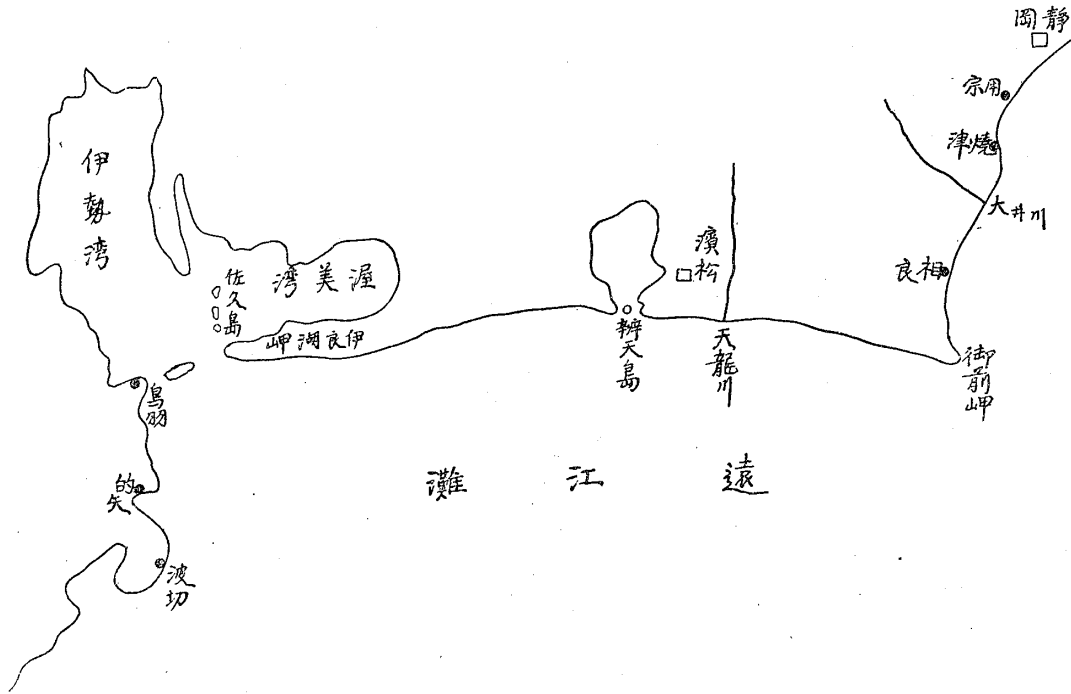
シガ漸次沈降シタルモノニシテ今尙干潮時ニハ水下ニ寺院ノ敷石ト覺シキモノヲ認ムト云フモノアリ。

二見ヶ浦附近ノ海岸ニテ砂濱ノ場所ハ燒津附近ト同様ニ年激浪ノタメ著シク削ラレ現時ハ堅固ナル堤防ヲ以テコレガ豫防ヲナシツ、アルモ所慣夫婦岩以南ハ固キ秩父古生層下部ノ岩石ヨリナルタメ激浪ニヨル影響極メテ少ク且久シキ以前ヨリ何等土地ノ昇降ノ跡ヲ認メザル由ナリ。

鳥羽ヨリ波切ニ至ル間ハ前述セル東海道西部ノ地形トハ全全ツノ趣ヲ異ニシ海岸ノ出入曲折極リナク砂濱少ク多クハ岩壁ヲ以テ直接海ニ接シ全體トシテ土地沈降ニヨリテ生ジタル地形タル事ハ一目ニシテ知ルヲ得ベシ然レドモコノ沈降作用ハ可成古キ以前ニ行ハレシモノナルベク果シテ現在マデ繼續シ居ルヤハ大ナル問題トス。

鳥羽的矢附近ニ於テハ久シキ以前ヨリ海岸ノ昇降ニハ何等變化ナシト云フモノ多キニ反シ南部志島、畔名、波切附近ニ於テハ海岸一帶ノ人々ガ海岸ノ沈降シツ、アルヲ認メ居ルハ注目スベキ事トス。一例ヲ見ルニ波切港内ノ平岩、疊岩等ガ廿年前ヨリハ少クトモ六七寸水下ニ沈降セリト云フ者多ク且防波堤附近ノ石洞ニシテ明治以前ハ全ク陸上ニアリシト傳フルモノガ現在ハ滿干潮共ニ水中ニアル等何レモ土地沈降ノ證據トナルモノナラン。

圖 四 第



第百號乙 東海道西部及び紀伊半島東部ノ海岸ノ變動ニ關スル調査概報

●● 結論以上各地ニ於テ聽取シタルモノヲ綜合スルニ東海道西部(用宗ヨリ伊良湖岬ノ先端ニ至ル間)ノ海岸ノ變化ハイツレモ單ニ砂濱ノ潮流ニヨリテ移動セルノミニシテ久シキ以前ヨリ目立チテ土地ノ昇降セシ所ナキモノ、如シ。伊勢灣、渥美灣内ノ海岸ノ變化ハ不明ナルモ兩灣ノ中間ニ位スル佐久ノ島附近ハ三四十年前ヨリ一二尺沈降セルモノ、如ク紀伊半島ノ東部(一見ケ浦ヨリ波切ニ至ル間)ニ於テハ北部二見浦鳥羽的矢附近ニ於テハ土地昇降ニ關シ何等ノ異狀ヲ認メザルモ南部志島波切附近ニ於テハ二三十年前ヨリ略ボ六七寸沈降セルモノノ如シ。